（本社）

株式会社梅谷製作所

段ボール製函機・印刷機

和歌山県（有田川町）

設計製造販売修理の一貫メーカ工場

代表取締役
村川　市郎さん

◇御社の歴史を教えて下さい。

当社は、昭和二六年に大阪の姫島で梅谷製作所として設立し、今年で七〇周年となります。初めは、機械加工を行う町の鉄工所でした。

そのあと、大阪府岸和田市に創業の新しい金属団地に移転し、大阪の鉄工業建設機械メーカーとなりました。

「下請けを多くする事業を始めたのは、溶接加工業務を占めるようになった。」

「メーカーとしての品質を中心とした業務を行う会社を目指す。」

◇「ものづくり」へのこだわりを教えて下さい。

当社は、自社で製品を作り、持っている機械メーカーとして、元請けの先端技術者を廃業した印刷機械等を買い取り、段ボール印刷機械の製造に広い土地が必要となった。

昭和五八年に、段ボール印刷機の製作を始めました。

「メーカーとして確立できたと考えています。」

◇人材育成について教えて下さい。

「過去のものづくり業界は、根付いていました。当社で、選ばれた指導担当者が、一人前に育てるまでは、各部署では安全教育を含めた勉強会や、外部の展示会などへの積極的に参加しています。特に工作機械メーカーの展示会は、常に最新技術に触れる事で得るものがあるため、参加するようにしています。

現場では、基本的に一人が台の加工機を担当しますが、現場での欠員がでてもお互いに補完できるよう、多能工を目指しています。

新卒時に、中途採用を問わず、教育役がこなせる人材を面接で聞きとり、約半年かけて、全体の業務を経験します。その後に、再度どの部門で働きたいのかの希望する部署を行い、最終的に希望する部門で仕事をします。

主要製品

◇ポリテクセンターから採用した感想は？

ポリテクセンターから採用した方は、前職で経験された社会人としてのコミュニケーション能力が高い傾向にあり、とても良い印象があります。また、社会人経験に加えて、基本的な技術は職業訓練でしっかりと身に付けているので、実務的な補助に入りやすく、とても大きな強みになっていると考えられます。

◇ポリテクセンター和歌山に期待することは？

採用する会社によって必要な知識や技術は様々で、深い専門的な部分は、会社に入ってからポリテクセンターでは、基礎的な知識や技術をしっかりと身に付けて指導できます。そのため、ポリテクセンターで頂けるようにご指導していただけるとうれしいです。

もちろん、専門性を持ちながらも、強い気持ちがあるかたは、ぜひ挑戦してみてください。

（令和３年２月取材）

修了生の声（電気設備技術科）

平成31年3月修了
井戸　健太　さん（３０歳）

電気設備技術科に入所したきっかけは、電気は産業や生活には欠かせない分野であり、産業と密接な関わりがあることから、将来性がありそうだと考えたからです。前職はホームセンターでアルバイトをしており、今まで電気のことは全く知らなかったので、入所に踏み切るには不安がありました。いざ、入所してみると電気分野の基礎から学べたので、理解することができました。

最初は、電気設備への就職を考えていましたが、シーケンス制御を学ぶと、自分の思い通りに機器動かせることがとても楽しく、制御の世界に興味を惹かれ、仕事に活かしたいと思いました。

現在は、ラダー図やCADを用いた展開接続図の作成、タッチパネルのデータ設計などを行う部署に配属されており、先輩や上司に指示をもらいながら、仕事をしています。また、仕事をしていく中で、分からないことが増えてくるので、毎日勉強しています。

将来的には、今の上司のような後輩に指導ができる、一人前の技術者になれるよう頑張っていきたいと考えています。

これからポリテクセンターで職業訓練を受けようと考えている方は、興味を少しでも持ったのであれば、まずはやってみることが大事だと思いますので、ぜひ挑戦してみてください。